

# 医科研病院だより



第36号

発行：東京大学医科学研究所附属病院  
平成29年7月15日  
〒108-8639 東京都港区白金4-6-1  
代表電話03-3443-8111  
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

## CONTENTS

|                  |   |
|------------------|---|
| 薬剤部長就任にあたって…………… | 1 |
| すこやか・カフェ……………    | 2 |
| 栄養サブリ……………       | 3 |
| なんでも・ひろば……………    | 4 |

## 薬剤部長就任にあたって

薬剤部長 黒田 誠一郎

みなさんこんにちは、平成29年4月1日より黒川 陽介前薬剤部長の後任として薬剤部長を拝命しました黒田 誠一郎（くろだ せいいちろう）と申します。医科学研究所創立125周年、改組50周年という節目の年に、このような重責を拝命し身の引き締まる思いであります。

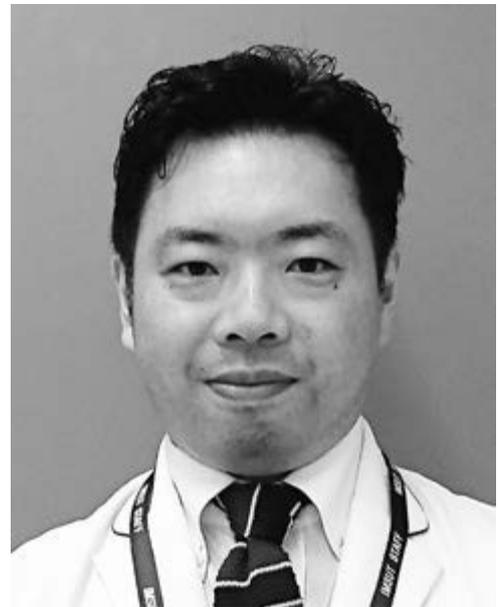
私は、昨年度まで、文京区の東京大学医学部附属病院薬剤部に20年勤務し、薬剤師として様々な経験をさせていただきました。特に、私はがん医療や緩和医療に携わることが多く、その経験から患者さま一人一人の人生に伴走できる医療人を目指していきたいと考えてに至りました。

医科学研究所附属病院（医科研病院）は、規模的には大きな病院ではありませんが、その分、職員同士の距離が非常に近く、お互いが協力し合い、患者さまとご家族に向き合っていく文化が根付いている素敵な病院です。また、国内最先端の研究を医療現場にいち早く届けることが可能な病院でもありますので、我々医科研の薬剤師も、その誇りを胸に医薬品を正しく評価し、患者さまにあった薬物療法を提供できるように考えております。

医療の進歩とともに医薬品も進化を続けてまいりました。特に、医科研病院のミッションである、がん、感染症やその他の難治疾患の治療に対して使用される医薬品のラインナップは劇的に増えています。しかし、そのことは身体というブラックボックスに入った医薬品が、どのように効果をもたらし、どのような危険性があるのかを検討する機会が増えたことも意味します。私は、我々薬剤師が(ノ)

(ノ)薬物動態学、薬物動力学および遺伝子を考慮した薬理学という専門性を活かし、その謎を解きあかすことで、患者さまに安心、安全な薬物療法を提供できると確信しております。

私の薬剤部長としての役割は、「患者さまに笑顔をもたらすこと」を基軸に、心温まる組織づくりと、その想いを叶える質の高い医療の提供にあると考えております。医科研病院の敷地内には多くのきれいな花が咲いています。その一つの花に向日葵があります。向日葵の花言葉は「あなただけを見つめる」。その想いを忘れずに日々精進していきたいと思っております。微力ではございますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



# すこやか・カフェ



## 放射線科・放射線部のご紹介

放射線科・放射線部 國松 聡



CT検査室にて。スタッフの皆さんと（右から3番目が筆者）

本年4月より、桐生 茂 前放射線部部長の後任として参りました。放射線科の科長も兼務しております。私のほか、放射線科の常勤医師2名、非常勤医師1名、放射線部の診療放射線技師5名で力を合わせて、医科研病院の放射線診療業務を担当しております。

私たちの行う放射線検査は、いわゆるレントゲン撮影と呼ばれる単純X線撮影から、骨密度計測、X線CT、MRI、PET検査まで幅広く、それぞれ日進月歩で機械や検査法が改良されていきます。検査を受ける患者さんや、検査を依頼して下さる先生方には、そうした最新の医療技術を提供できるよう、日頃より心がけております。

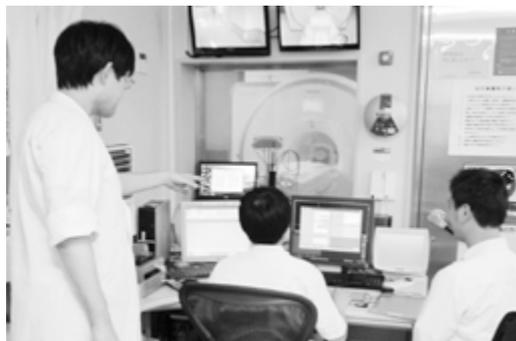
放射線科の医師は、CTやMRI、血管撮影検査、アイソトープ検査などを担当する放射線診断医と、放射線を使ったがん治療を行う放射線治療医（放射線腫瘍医）とに、大きく分けることができます。今回は、放射線診断医の仕事をご紹介します。

検査を依頼する主治医は、患者さんの症状を引き起こしている病気は何か、病気の程度は軽いのか重いのか、そして、病気に対する治療がちゃんと効いているか、などを知る目的で、CTやMRIなどの放射線検査を依頼します。放射線診断医は、検査の目的に応じて、検査機器を操作するプロである放射線技師に、どのような画像が必要かを前もって指示して検査に臨みます。目的に合う画像を撮ることが、病気を正確に診断する近道なのです。検査が終わったら、得られた画像を使って病気の種類やその具合を評価（診断）して、検査依頼医にその結果を報告します。

放射線検査で、造影剤という薬を注射されたことのある患者さんもおられることでしょう。疾患によっては、造影剤を使うことでずいぶん診断がしやすくなります。逆に、せっかく造影剤を使ってもあまり情報が増えない疾患(♯)

(♯)もあります。そうそう、誰にでも造影剤が使えるわけではありません。造影剤に対して過敏症（アレルギー）が過去にあった方、腎臓のはたらきが低下している方などへは、安全を守るため、造影剤を使うことが基本的にできません。放射線診断医は、放射線技師と協力して、患者さんの過去のデータや血液検査の結果から、この患者さんには特に問題なく造影剤が使えるな、あの患者さんにはこの造影剤は使えないな、とその都度確認して判断し、検査を安全に進めています。

また、検査の質を保ちながら検査に使う放射線の量をできるだけ少なくすることも、放射線診断医や放射線技師の役割です。例えば、X線CTでは使用するX線の量を少なくすると、得られた画像の持つノイズが必ず増加しますので、過度なX線量の削減はわかりやすい検査という点では本末転倒な結果につながります。そのため、使用するX線の量と求める画質とのバランスを上手く定めることが大変重要です。日本では、医療のために受ける放射線の量が諸外国に比べて多いことが昔から指摘されてきました。こうした事態を改善するため、2年ほど前に、放射線診療や医療放射線防護に関わるいくつもの学会や団体が合同で、標準的検査に使用される放射線量の目安を発表しました。この目安も参考にしながら、検査機器に適切な設定を行うよう心がけております。



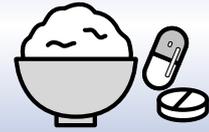
MRI検査室にて。放射線科医と診療放射線技師が協力して検査にあたります



人口あたりのCTやMRIの機器の台数がとても多いことが、欧米に比した日本の特徴です。でも、人口あたりの放射線診断の専門医は欧米よりずっと少ないのです。医療政策の視点では、放射線検査をすることがその後の治療に本当に役立つことが期待できる患者さんを見抜くことで、放射線診断医が、限られた医療資源を効率的に活用する手助けをすることも期待されています。

医科研病院A棟の2階と地下1階では、放射線科医や放射線技師がせっせと働いています。皆さんに直接お目にかかるチャンスは少ないですが、診療の一翼を担っています。これからも、質の高い、安心・安全な放射線診療に努めて参ります。

# 栄養サプリ



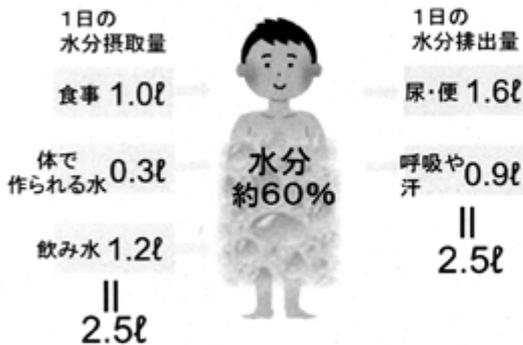
## 水分補給は“早めに”“こまめに”

栄養管理室

### 体と水の関係

(成人男子が比較的安静にしている場合)

体の約60%は水分です



体の水分が不足すると、熱中症や脳梗塞、心筋梗塞など、様々な健康障害のリスクの要因となります。

### このような方は脱水になりやすい！



【のどの渇きを感じにくい】

暑い日でも  
あんまりのどが  
渇かないんだけど

【食事の量が減っている】

つついとお茶漬け  
だけで済ませちゃうね

【皮膚や唇が  
乾燥している】

肌の張りが  
なくなってきたかも

【血糖が高めである】

自覚症状って  
特にないんだよなあ

## のどが渇く前に飲もう！脱水予防！

【のどの渇きは脱水が始まっている証拠です！こまめに水分補給しましょう】

起床時



寝る前



運動前



運動中



運動後



入浴前



入浴後



飲酒前



飲酒中



飲酒后



### 【水分の上手なとりかた】

水分補給は  
回数を分けて少しずつ



コップの水をあと  
2杯飲むことを目指そう



水分の摂取量は多くの方が  
不足ぎみですが、平均的には  
コップの水をあと2杯飲めば  
1日に必要な水の量  
をおおむね確保できます。

### その他注意事項

- 汗をかかなくても水分は失われているため、冬でも脱水になる可能性があります。こまめな水分補給を。
- アルコールやカフェインを多く含む飲料は利尿作用で通常より多く尿が排泄されるため、水分補給としては適しません。
- 腎臓、心臓などで治療中の方は、水分摂取量については医師に確認し、指示に従ってください。

参考資料：厚生労働省HP

# なんでも・ひろば



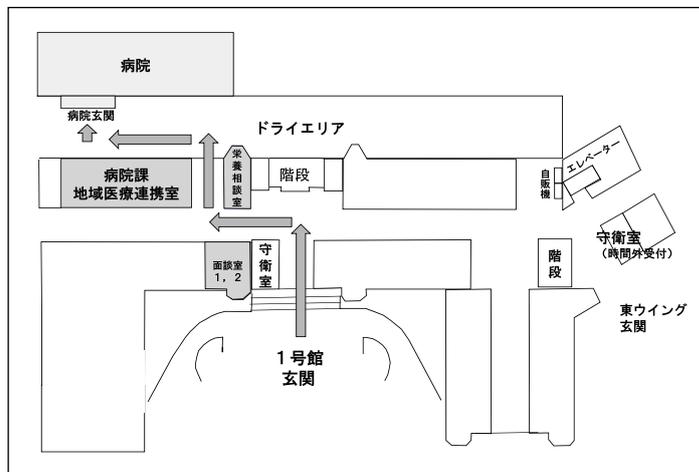
## 1号館耐震改修工事が終了しました

時計台のある、医科研の象徴とも言える1号館の耐震工事が終了しました。それに伴いまして「病院課」、「地域医療連携室」、「栄養相談室」、「面談室」が移転いたします。この医科研病院だよりが皆様のお手元に届く頃には移転が終了していると思います。また、病院への行き方も、現在の東ウイングからだけではなく、以前と同様に正面の玄関からも行くことが可能となります。特に荒天時ご迷惑をおかけいたしておりましたが、風雨の影響が今までより少なくなります。

1号館は、関東大震災後に建設され、同程度の規模の地震に耐えられるよう設計・施工され、コンクリート等も質のよい材料が用いられています。現在の耐震基準にもこれで満たすこととなりました。なお、病院棟は免震構造となっており、東日本大震災の時も建物内の揺れは、他の建物と比較して軽微で済み、地震に対応したエレベーター停止はありましたが、特に被害は発生しませんでした。

港区では広域避難場所を指定しています。近隣の掲示を見ますと「自然教育園・聖心女子学院一带」と示されています。「医科研」の文字は含まれていませんが、この避難場所には自然教育園と聖心女子学院に加え、実は医科研が含まれています。もともと正門を入り右手には緑地があり、避難場所としては適していますが、一号館という医科研の主要建物の耐震改修工事が終わり一安心というところです。

(夏の広報委員)



病院までの順路



## ◆病院からのお知らせ◆

### ●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は

[http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT\\_ORE\\_7.html](http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html) をご覧ください。

## 東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

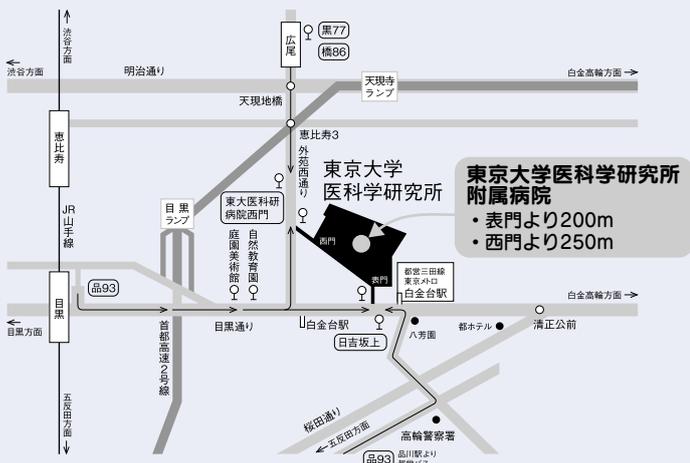
### 診療科

内科 (総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器)

小児科 (小児細胞移植)

外科 (一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科 (関節)

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



### 外来診療日

月曜日～金曜日 (祝日および年末年始を除く)

### 診療受付時間

8:30～11:30 (初診・再診)

12:30～16:00 (再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話 (予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00 (外来診療日のみ)

### アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
  - JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メートル)
  - JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
  - 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台ございます。ご利用は受付にお申し出ください。